

東京五輪に関わる物流情報



5/6（木曜）

東京港に於いて、5月18日（火曜）～19日（水曜）の2日間、青海や大井などの全コンテナターミナルを対象として、深夜のゲートオープンに向けたトライアル実施することになりました。

これは、今夏に迫った東京オリンピック・パラリンピックに備えた交通対策の一環であり、今回の競技会場の多くが東京の臨海部に集中していることにより大会関係車輛と物流貨物車輛が時間帯によって重なることで想定される港湾地域周辺の道路混雑の悪化解消に向けた取り組みでもあります。

コンテナターミナルのゲートオープン時間を拡大（朝は現在の8時30分より1時間前倒しの7時30分オープン、夜間は最長で翌日午前4時まで）をすることで、コンテナターミナルへの車輛を分散され、懸念される道路混雑による物流の滞留を緩和する狙いがあると見られています。

東京五輪に伴う物流に関する情報は今後もこちらでご案内してまいります。

6/3（木曜）

5月18日～19日にかけて行われた東京港でのゲートオープン時間の拡大トライアルの実績が明らかになり、2日間で利用コンテナ本数は計5521本に及びました。早朝（午前7時30分～午前8時30分）と夜間（通常午後4時30分を午後6時に延長）は利用実績が多かったものの、予約制だった深夜に関してはその周知期間が短かったこともあり、利用は限定的でした。今後は周知方法の改善等が課題となります。大会関係車両と港湾物流車両が重なることにより想定される道路混雑の発生を分散させることを目的とし、全コンテナターミナルとバンプールを対象としたゲートオープン時間の拡大を行う方針で、特に深夜ゲートオープンに関しては日本港湾として初めての試みとなります。